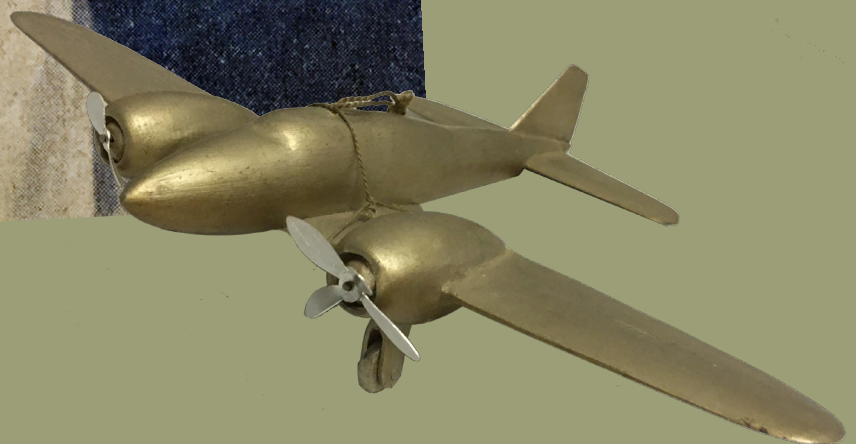


令和2年度第1回企画展

館蔵資料に見る 戦争の記憶



ごあいさつ

今年は、太平洋戦争の終結から 75 年の節目を迎えます。

昨年 7 月の発表によると、我が国の平均寿命は女性 87.32 歳、男性 81.25 歳でした。この平均寿命からは、75 年という歳月が、物心ついた子どものその後の人生の長さと同じくらいの年数である、と感じる方も多いことでしょう。事実、太平洋戦争を直接体験された方は身近に少なくなり、その悲惨な状況や体験、記憶についての語り部が失われつつあります。

現在の私たちの平和な生活があるのは、太平洋戦争、終戦後の混乱、その後の高度経済成長による目覚ましい発展を経てのことです。その背景には、悲惨な戦争の体験や記憶があり、もう二度と戦争を起こさないという強い決意と、平和への願いがありました。

今回の企画展では、住民の皆様から寄贈された数々の資料の中から、戦争の体験や記憶を伝えるものをご紹介します。これらの資料を通して平和の尊さを再確認し、戦争の記憶を風化させることなく語り継いでいく機会となれば幸いです。

最後に、これらの貴重な資料を寄贈、寄託してくださいました方々に厚く感謝申し上げますと共に、皆様のより一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

令和 2 年 7 月

宮代町郷土資料館

～～凡例～～

1. 本書は、令和 2 年 7 月 11 日（土）から 10 月 25 日（日）まで開催される、令和 2 年度第 1 回企画展「館蔵資料に見る戦争の記憶」の展示図録です。
2. 展示開催期間中の休館日は次の通りです。
7 月 13・20・27～29 日、8 月 3・11・17・24・31 日、
9 月 7・14・23・24・28 日、29 日～10 月 2 日（燻蒸休館）、5・12・19 日
3. 本展示は、当館学芸員 横内美穂が担当しました。
4. 本書は展示構成に基づき作成しましたが、掲載した順序や写真の大きさなどは任意です。
5. 展示会場および本書中の敬称は省略させていただきました。
6. 展示会場および本書中に使用させていただきました資料の提供者及び協力者は下記のとおりです。心より感謝申し上げます。（敬称略・五十音順）

新井隆夫・井上三千雄・岩崎克己・岩崎孝一・岩崎俊男・岩崎文庫・小河原悦子・小河原進・折原静佑・金子和生・金子三春・木村竹男・小島明良・齋藤康一・齋藤良吉・島村正次・鈴木愛子・戸田ふく・富田利幸・中村ヒサ子・萩原一丸・宮代町立東小学校・森真知子・吉岡嘉一・渡辺重義

太平洋戦争への道

嘉永6年（1853）6月3日、黒船の来航という脅威に驚かされた日本は、翌7年3月3日に締結されたアメリカとの日米和親条約を初めとして、8月にはイギリスと、12月にはロシアと和親条約を結びました。諸外国の進んだ文化や技術を目の当たりにすることになった日本は、倒幕を経て新しい政権となった明治政府のもと、諸外国から最新の文化や技術を学びつつ、「富国強兵」の目標を掲げ様々な政策を実施していきました。

強兵政策の一つとして明治6年（1873）1月10日に陸軍省から発布された「徴兵令」は、その後、太政官布告として幾度かの改正を経て、明治22年1月に法律として発布され、中央集権体制の近代国家らしい軍隊を作り上げていきました。そして明治27年（1894）の日清戦争、明治37年（1904）の日露戦争を経て、国際的にもその成果を証明していきました。さらに、大正3年（1914）に勃発した第1次世界大戦終戦後の大正9年1月に発足した国際連盟において、加盟国の一員となるまでその存在を大きくしました。

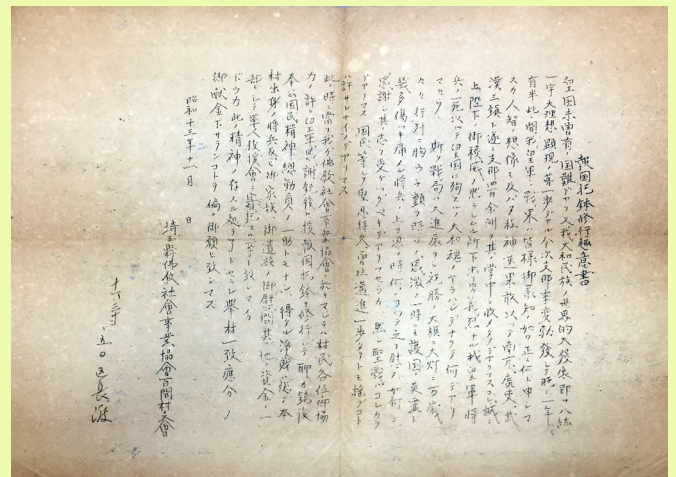
昭和2年（1927）4月1日には、「徴兵令」を全部改定・改題する形で「兵役法」が公布され、日本国民全ての男子に兵役が課せられました。兵士として集められた者は陸軍か海軍に属し、派遣される先は国内の駐屯地だけでなく、それまでの戦争によって権益を得た朝鮮や支那などにも及びました。国外では、その派遣されていた軍が起因となり、昭和3年（1928）6月の張作霖爆殺事件や、昭和6年（1931）9月の柳条湖事件（満州事変）とその翌年の満州国建国、そして昭和12年（1937）7月7日の盧溝橋事件（支那事変）などが起こり、日中戦争が勃発しました。

昭和13年（1938）4月1日に「国家総動員法」が公布されると、軍事物資やその他総動員に必要な物資、生産、配給、輸出入などの統制が始まり、国民は生活のいたるところで統制を受けながら、「挙国一致」「欲しがりません 勝つまでは」「ぜいたくは敵だ！」といったスローガンのもと、がまんを強いられる日々となっていました。



広告（国民精神総動員）

昭和12年（1937）以降
折原家文書



報国托鉢修行趣意書

昭和13年（1938）11月
折原家文書



塗り絵切抜き

昭和10年代
折原家文書



百間村国防婦人会 役員集合写真

昭和12年(1937)4月14日
岩崎氏所蔵写真複写



「百間小学校にて大日本国防婦人会」

昭和12年(1937)4月18日
小島(明)家文書



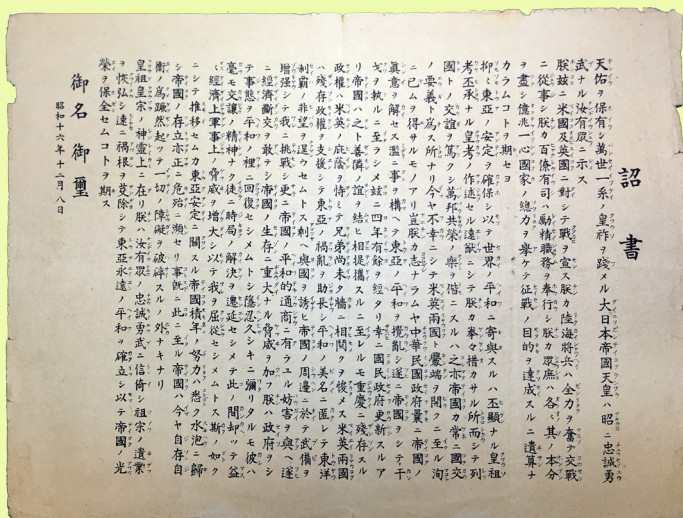
「支那事変聖戦史」広告

昭和13年(1938)頃
折原家文書

太平洋戦争開戦

昭和16年12月8日、突如として日本軍がハワイの真珠湾を攻撃し、同時にアメリカに戦線布告、日米間が交戦状態となりました。この背景には、日中戦争が激化する一途をたどる中で第2次世界大戦がはじまり、昭和15年(1940)9月27日、日本・ドイツ・イタリアの三国間で軍事同盟を結んだことがありました。ドイツに近づく日本の行動はアメリカを刺激し、アメリカは対日警告として、日本がほぼ依存していたアメリカからの石油・屑鉄の輸出を許可制にしました。また、ドイツの電撃的な勝利に便乗し、日本はイギリスやフランスが領有していた東南アジアの植民地などを占領して豊富な資源の入手をはかる南進政策をうちだしましたが、これがさらにアメリカとの対立を深めることとなり、開戦の原因になりました。

アメリカ側の対戦準備が不十分であったものに乗じての宣戦布告でしたが、国力の違いはすぐに現れました。昭和17年6月のミッドウェー海戦では、日本は主力の航空母艦を4隻も沈められ太平洋における主導権を奪われました。さらに、同年8月から翌18年2月にわたって行われたガダルカナル島の攻防戦での敗北で、日本は制海制空権を一挙に失いました。以降、日本の戦線は後退の一途をたどり、戦地となった太平洋上の島々では、日本軍は「玉砕」という全滅を続けていました。



対米国及び英国 開戦詔書

昭和16年(1941)12月8日
折原家文書



支那事変割引国庫債券

昭和 14 年 (1939) 10 月 23 日
森氏 寄贈



大東亜戦争割引国庫債券

昭和 18 年 (1943) 4 月 20 日
森氏 寄贈



姫宮神社で行われた戦勝記念祭

昭和 17 年 (1942)
岩崎氏所蔵写真複写



風鈴「完遂 大東亜戦争」

昭和 13 年 (1938) 頃
渡辺氏寄贈



奉公袋

昭和 10 年代後半
島村氏 寄贈

↓遠方に見えている緑地は、道仏地区のものです。



「支那事変聖戦史」広告

昭和13年(1938)頃
折原家文書



百間国民学校付近で行われた軍事教練風景

昭和17年(1942)頃
中村氏所蔵写真複写



軍馬とともに

昭和18年(1943)頃
吉岡氏所蔵写真複写



航空機模型

昭和19年(1944)以降
小河原氏寄贈

昭和18年の出征時の際に家族から渡され、復員してくるまで肌身離さず持っていたそうです。周りをしっかり縫いとめてあるので、中身はわかりません。

御守袋

昭和18年(1943)
吉岡氏所蔵写真複写



軍隊での生活風景(航空機の前で集合写真)

昭和18年(1943)頃
岩崎氏所蔵写真複写

↓戦況の悪化を語るように、内容が国内だけになっています。



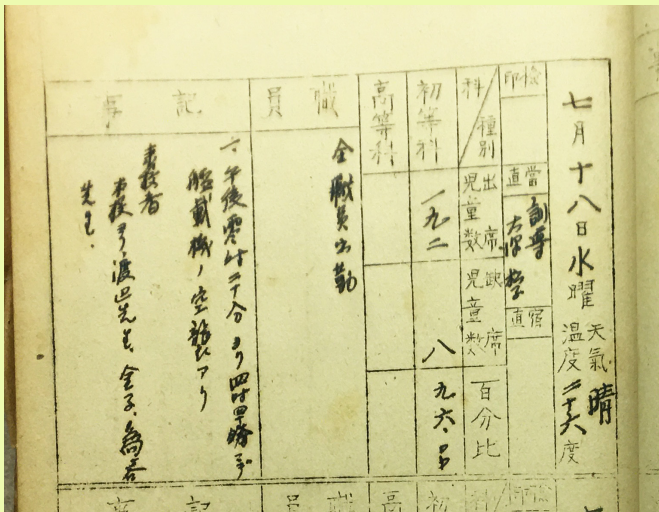
写真週報 第213号

昭和17年(1942)3月25日発行
鈴木(愛)家文書



写真週報 第265号

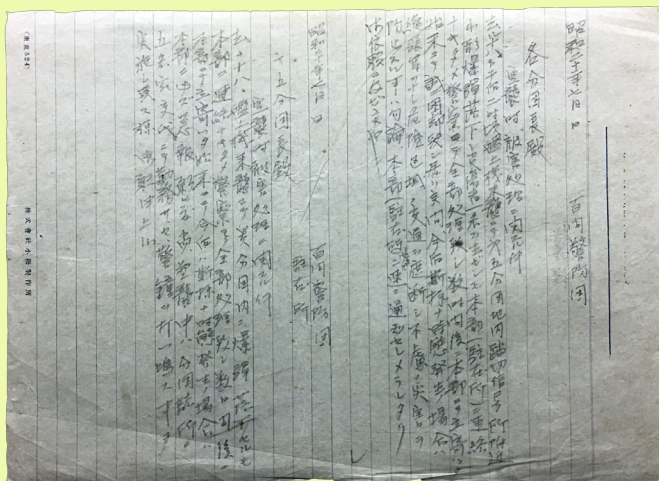
昭和18年(1943)3月21日発行
鈴木(愛)家文書



昭和20年度学校日誌(7月18日記述部分)

昭和20年(1945)
宮代町立東小学校移管文書

上下2点の文書は、町域に空襲があったことを示します。



空襲時の被害処理に関する件

昭和20年(1945)7月
吉岡氏所蔵写真複写



灯火管制要領につき解説書

昭和18年(1943)頃
折原家文書

昭和19年に入るところになると、日本が失ったマリアナ諸島を基地とするアメリカの長距離爆撃機B29によって日本各地に空襲が始まり、特に、翌20年3月9日の東京大空襲のほか、8月に終戦を迎えるまでに川崎・横須賀・名古屋・神戸ほか主要都市のほとんどを焼き払われました。

7月におこなわれたアメリカ・イギリス・ソ連の三国首脳会談による、日本に対する降伏勧告「ポツダム宣言」が7月26日に発表されましたが、日本はこの宣言に対する首相談話として「ポツダム宣言を黙殺し戦争に邁進する。」と答えます。この日本の宣言拒否に対してアメリカが戦争終結の決め手としたのが、8月6日の広島、そして同9日に長崎に落とされた原爆でした。またソ連が、戦争終結のためという同じ理由を掲げて8月8日に日本に宣戦布告し、軍事行動を開始しました。これらを受け、最終的には天皇の裁断で無条件受諾を決め、8月15日の詔書放送、いわゆる玉音放送により終戦を国民に知らせることにより、長期間にわたり多大な犠牲が生じた戦争も終わりを迎えました。

終戦と人々の暮らし

昭和13年の国家総動員法に始まった国内の物資統制は終戦後もしばらく続くこととなり、国民は様々な場面で不便な生活を送らざるを得ませんでした。日常的に必要なものの多くは、配給切符や手帳を持たずには購入することができず、また、購入できるはずの物でも予定された配給量が遅れてしまう「遅配」や、配給自体が取り消されてしまう「欠配」があり、思うように入手することはできませんでした。

子どもたちが学校で受ける授業は、修身・国史・地理など戦前教育の影響を受けた科目の授業が停止され、使用する教科書も不適切とされた部分を墨で塗りつぶしたり、ページそのものを切り取ったりなどして使いました。また、謄写版で質の悪い紙に必要な部分だけ手刷りで印刷した教科書を使用する場合もありました。

しかしながらこういった状況は、連合国軍からの放出物資や国際赤十字などからの救援物資が支給されるなどして改善されていき、併せて、昭和25年(1950)には朝鮮で勃発した戦争(朝鮮戦争)の特需景気や、農地改革による農業生産力の向上もあって、日本の経済は少しずつ復興の道を歩み出しました。

日本は太平洋戦争の前後で、大きな変貌を遂げました。それは、GHQの指導の下、昭和21年(1946)11月3日に公布され、翌年5月3日に施行された日本国憲法に表れています。この日本国憲法の三大原理として、「基本的人権の尊重」「国民主権(民主主義)」「平和主義」が挙げられますが、この三つには「個人の尊厳」という基本原理があるという学説があります。戦前の日本の「八紘一宇」「挙国一致」といったスローガンに見られるように、ファシズム的国家の道を歩んできた日本は、戦争という大きな代償を「個人の尊厳」を基本原理にする国家へと生まれかわる糧としました。

終戦後75年を経て、当時の人々が憲法に託した思いをわたしたちはしっかりと受け継いでいるのだろうか、平和について改めて考えてみるきっかけにしたいかどうかはいかがでしょうか。

配給券(家庭砂糖購入券)

昭和20年(1945)

鈴木(愛)家文書

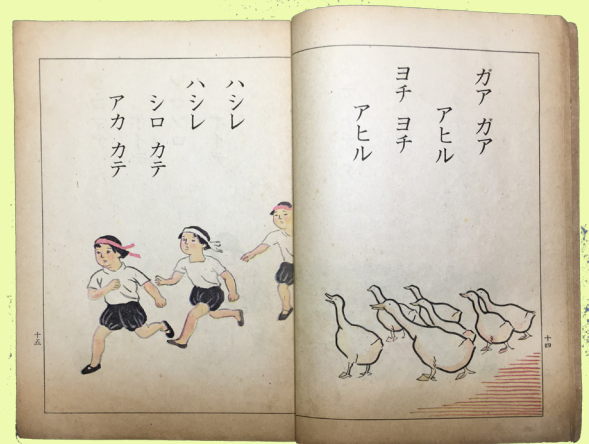
配給券(衣料切符)

昭和21年(1946)頃

折原家文書

ヨミカタ一

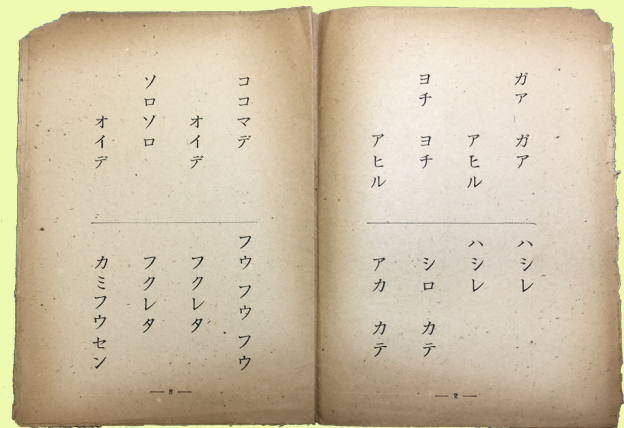
昭和16年(1941)3月15日
金子家文書



従軍証明書

昭和20年(1945)
金子家文書

戦後は物資が乏しかったので紙質が悪く、
↓ 内容も制約があったようです。

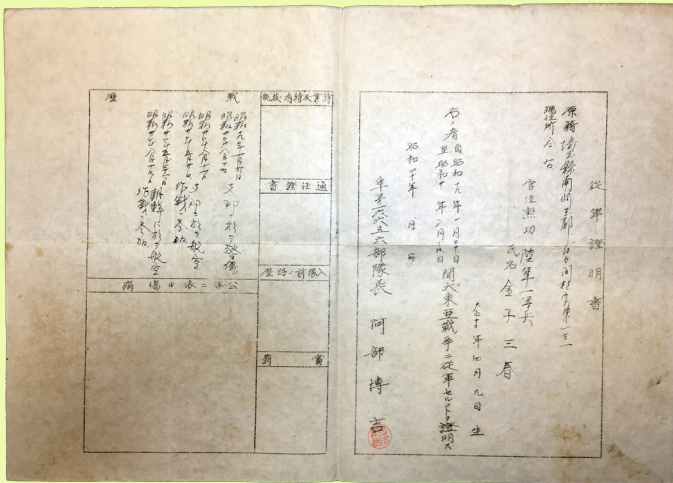
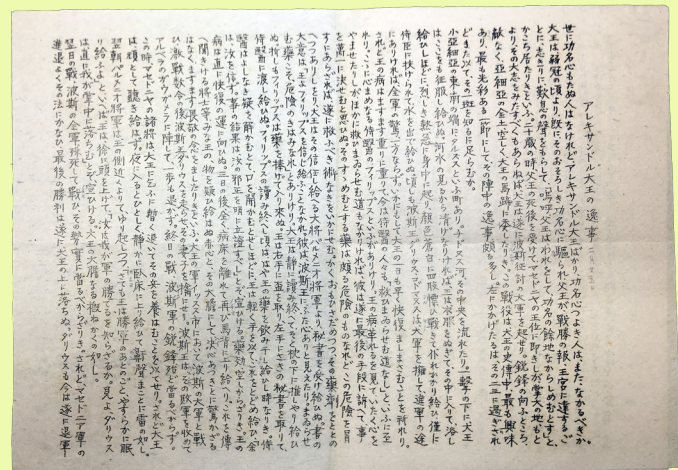


ヨミカタ一 1ネン上

昭和21年(1946)3月15日
金子家文書

教科書代替印刷物

昭和22年(1947)頃
金子家文書



イギリスのタバコお箱を利用して手作りされたトランプ

昭和21年(1946)1月頃
井上氏寄贈



焼き型 (パン焼き器)

昭和20年代
萩原氏寄贈

コーナー	資料名	年代	
太平洋戦争への道	読売新聞 夕刊	昭和 12 年 (1937)8 月 14 日	齋藤家文書
	広告 (国民精神総動員)	昭和 12 年 (1937) 以降	折原家文書
	徴兵保険パンフレット	昭和 12 年 (1937) 頃	富田家群書
	在満将士慰問袋に関する依頼文	昭和 11 年 (1936)9 月 12 日	折原家文書
	国防婦人会発会式举行通知	昭和 12 年 (1937)4 月 16 日	折原家文書
	報国托鉢修行趣意書	昭和 13 年 (1938)11 月	折原家文書
	古写真 「百間小学校にて大日本国防婦人会」	昭和 12 年 4 月 18 日	小島 (明) 家文書
	割増金付徴兵保険 パンフレット	昭和 10 年代	折原家文書
	塗り絵切抜き	昭和 10 年代	折原家文書
	戦地の種々様	昭和 14 年 (1939)6 月 1 日	折原家文書
	「支那事变聖戦史」 広告	昭和 13 年 (1938) 頃	折原家文書
	大日本国防婦人会要覧	昭和 12 年 (1937) 頃	折原家文書
	百間村国防婦人会 役員集合写真	昭和 12 年 (1937)4 月 14 日	岩崎氏所蔵写真複写
太平洋戦争開戦	対米国及び英国 開戦詔書	昭和 16 年 (1941)12 月 8 日	折原家文書
	大東亜戦争下に於ける県民実践事項	昭和 16 年 (1941) 以降	折原家文書
	大詔渙発一周年記念 大東亜戦争報道写真録	昭和 17 年 (1942)12 月 8 日	小河原家文書
	国民進軍歌	昭和 17 年 (1942)5 月 5 日	齋藤家文書
	姫宮神社で行われた、戦勝祈願祭	昭和 17 年 (1942)	岩崎氏所蔵写真複写
	百間国民学校付近で実施された軍事訓練風景	昭和 17 年 (1942) 頃	中村氏所蔵写真複写
	支那事变割引国庫債券	昭和 14 年 (1939)10 月 23 日発行	森氏寄贈
	大東亜戦争割引国庫債券	昭和 18 年 (1943)4 月 20 日発行	森氏寄贈
	勝札	昭和 20 年 (1945) 7 月発行	折原家文書
	百間村青年団第一分団国民貯蓄組合規約	昭和 18 年 (1943) 6 月 30 日	金子家文書
	選挙人の心得	昭和 17 年 (1942) 3 月	折原家文書
	村会議員選挙 投票済之証	(昭和) 7 月 21 日	折原家文書
	航空機模型	昭和 19 年以降	小河原氏寄贈
	折り紙の帯紙	昭和 10 年代	折原家文書
	写真週報 第 213 号	昭和 17 年 (1942) 3 月 25 日発行	鈴木 (愛) 家文書
	写真週報 第 265 号	昭和 18 年 (1943) 3 月 21 日発行	鈴木 (愛) 家文書
	出征にあたって記念撮影	昭和 18 年 (1943) 頃	岩崎氏所蔵写真複写
	軍隊での生活風景 (就寝)	昭和 18 年 (1943) 頃	岩崎氏所蔵写真複写
	軍隊での生活風景 (訓練)	昭和 18 年 (1943) 頃	岩崎氏所蔵写真複写
	軍隊での生活風景 (航空機の前で集合写真)	昭和 18 年 (1943) 頃	岩崎氏所蔵写真複写
	銃後家族写真	昭和 18 年 (1943) 頃	岩崎氏所蔵写真複写
	防空頭巾	昭和 20 年 (1945)	戸田氏寄贈
	国民服	昭和 20 年 (1945)	金子氏寄贈
	風鈴「完遂 大東亜戦争」	昭和 17 年 (1942) 頃	松井氏寄贈
	初等科裁縫 上	昭和 17 年 (1942)11 月 30 日	鈴木 (愛) 家文書
	御守袋	昭和 18 年 (1943)	金子氏寄贈
	奉公袋	昭和 10 年代後半	島村氏寄贈
	慰問袋	昭和 17 年 (1942) 頃	岩崎氏寄贈
	軍馬とともに	昭和 18 年 (1943) 頃	吉岡氏所蔵写真複写
	軍用保護馬鍛錬競技会開催の件	昭和 18 年 (1943)3 月 15 日	木村家文書
	昭和十七年度海軍志願兵の葉	昭和 17 年 (1942)	金子家文書
	レントゲン及検査豫習會 日時変更ノ件	昭和 18 年 (1943)5 月 17 日	金子家文書

コーナー	資料名	年代	
太平洋戦争開戦			
	レントゲン及検査豫習會 日時変更ノ件	昭和 18 年 (1943)5 月 17 日	金子家文書
	出陣供養並びに戦勝祈願祭執行通知	昭和 18 年 (1943)1 月 21 日	折原家文書
	出征通知	昭和 19 年 (1944)8 月 19 日	齋藤家文書
	無事入隊につき通知	昭和 19 年 (1944)9 月 15 日	折原家文書
	年賀状	昭和 18 年 (1943)1 月	折原家文書
	英霊凱旋の件通知	昭和 19 年 (1944)2 月 17 日	折原家文書
	英霊凱旋の件通知	昭和 20 年 (1945)2 月 8 日	折原家文書
	銃後家族写真	昭和 20 年 (1945)1 月 10 日	金子家文書
	時局防空必携	昭和 18 年 (1943)	折原家文書
	空襲発令時における高射砲実弾射撃実施につき通知	昭和 18 年 (1943)1 月 2 日	折原家文書
	木炭配給の件通知	昭和 18 年 (1943)1 月 2 日	折原家文書
	薪供出に関する通知	昭和 19 年 (1944)1 月 4 日	折原家文書
	食糧配給に関する通知	昭和 18 年 (1943)8 月 2 日	折原家文書
	回覧板 (空襲警報発令時、高射砲実弾射撃実施時の注意について)	昭和 19 年 (1944) 頃	折原家文書
	出産用衛生材料配給要綱変更に関する件通知	昭和 18 年 (1943)12 月 10 日	折原家文書
	防空警報用サイレン吹鳴試験並警鐘打鐘訓練実施に関する件通知	昭和 19 年 (1944)7 月 2 日	折原家文書
	金属決戦回収に関する件通知	昭和 20 年 (1945)1 月 12 日	折原家文書
	灯火管制実施要領	昭和 18 年 (1943) 頃	折原家文書
	日用品配給の件通知	昭和 20 年 (1945)8 月 9 日	折原家文書
	灯火管制乙用 (灯火管制要領につき解説書)	昭和 18 年 (1943) 頃	折原家文書
	杉戸駅前防空壕にて集合写真	昭和 18 年 (1943) 頃	岩崎氏所蔵写真複写
	隣組回覧通信防諜	昭和 18 年 (1943) 頃	折原家文書
	防空訓練警報の種類	昭和 18 年 (1943) 頃	折原家文書
	空襲時被害処理に関する件		折原家文書
	昭和 20 年度 学校日誌	昭和 20 年 (1945)4 月 1 日～	宮代町立東小学校移管文書
	警報受領簿	昭和 20 年 (1945)8 月 9 日	折原家文書
終戦と人々の暮らし	読売報知新聞 (ポツダム宣言受諾の詔書掲載)	昭和 20 年 (1945)8 月 16 日	齋藤家文書
	朝日新聞 (ポツダム宣言受諾の詔書掲載)	昭和 20 年 (1945)8 月 16 日	齋藤家文書
	従軍証明書	昭和 20 年 (1943)	金子家文書
	ヨミカタ ー	昭和 16 年 (1941)3 月 15 日	金子家文書
	ヨミカタ 1 教師用	昭和 16 年 (1941)5 月 16 日	金子家文書
	ヨミカタ ー 1 ネン上	昭和 21 年 (1946)3 月 15 日	金子家文書
	転出証明書	昭和 20 年 (1945)3 月 29 日	金子家文書
	配給券	昭和 21 年 (1946) 頃	折原家文書
	教科書代替印刷物	昭和 22 年 (1947) 頃	金子家文書
	焼き型 (パン焼き器)	昭和 20 年代	萩原氏寄贈
	イギリスのタバコの箱を利用して手作りされたトランプ	昭和 21 年 (1946)1 月頃	井上氏寄贈
	家庭 中学校 第一学年用	昭和 24 年 (1949)12 月 20 日 再販	鈴木 (愛) 家文書

[illegible]

・いさ下覽御てし合照と則規の面裏は細詳・

(「灯火管制要領につき解説書」内側)

宮代町郷土資料館